

事業の計画

公財)JKA 平成25年度 小型自動車等機械工業振興事業に関する補助金補助事業
テーマ名:IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究

1 事業の目的

今後の民間あるいは行政における電子サービスの充実と形態の多様化により、各電子サービス間での認証連携の重要性が増してきている。これはシステムに適用される個人のID (Identification; 個体識別符号) を扱うIdM (アイデンティティマネジメント) の中で、複数の電子サービス間の認証連携で必要とされるユーザ認証技術を簡単で安全で安心な形で提供する必要性を意味する。しかしながらユーザ認証に用いられることの多いパスワードの持つ問題を回避できる簡便なセキュリティ技術が提供されていない。

この状況を鑑みると、IdMシステムに適用される本人認証基盤として、バイOMETリック認証技術の持つ特徴を生かしながら電子認証システム等におけるセキュリティの考え方を考慮した複数のバイOMETリック認証技術が組み込み可能な本人認証基盤技術を提供することにより、パスワードの持つ問題が回避され、かつ効率的に管理・運用のできるIdMシステムが、全世界的に適用・運用され、安全で安心できる経済・社会活動が営まれることを目指すことが重要であると考えられる。

本事業では、その声にこたえるため、今後の民間あるいは行政での電子サービスの充実と形態の多様化に対応することを目指し、IdMシステムに用いることのできる複数のバイOMETリック認証技術を組み込むことを可能とする本人認証基盤の研究と開発を行う。また、電子認証システム等で考慮されるようになったセキュリティの考え方とここで研究開発する共通本人認証基盤との融和あるいはその位置づけの明確化に関する研究と開発に取り組む。加えて、実システムへの適用を促進するため、成果をIdMシステム開発者、バイOMETリック技術ベンダおよびシステム関係者に周知することを目的とする。

2 事業の遂行に関する計画

(1) 事業の内容

IdMシステム開発者、バイOMETリクス技術ベンダに対して、

- ・多様化した電子サービスでバイOMETリック認証技術を用いた強固で利便性の高いセキュリティの提供
- ・バイOMETリック装置、システムの開発範囲をスリム化し、開発コストの低減、開発期間の短縮
- ・開発したインターフェイスを国際規格化し、世界的な共通プラットフォームとし国際競争力向上

を汎用的に提供することを目指し、民間サービスだけでなく、公共性の高い電子行政サービスにも適用可能なIdMシステムにバイOMETリクスを組み込むことを可能とする本人認証基盤の研究、開発とその評価を行う。

本開発研究は3か年計画であり、本年度申請は第3年度作業に対するものである。

3年間全体の開発計画は以下のとおり。

- ・H23年度(本開発研究): 認証基盤プロトタイプの開発研究 1
(単一技術における認証基盤の重要部分(生体情報取得機能)を開発する。)
- ・H24年度: 認証基盤プロトタイプの開発研究 2
(単一技術における認証基盤全体の開発として IdM システムへの組み込みを完了す

る。)

- ・H25年度：認証基盤プロトタイプの完成
(複数技術が組み込み可能な認証基盤の完成 /
電子認証システムへの適用(H25年度追加計画))

平成25年度の事業項目は、次のとおりである。

- ・共通バイOMETリック認証基盤ソフトウェアの研究
- ・プログラム開発とシステム性能評価、検証実験の実施及び評価

具体的には、バイOMETリクスの特徴を生かしながら、IdMシステムなどの電子認証システムとして十分なセキュリティ機能を持つ本人認証基盤の研究開発として下記を実施する。

- ・共通バイOMETリック認証基盤機能の研究

バイOMETリクスを電子認証システム等に適用する際の共通バイOMETリック認証基盤の機能強化のため、前年度に開発研究したOpenIDに加え、もうひとつの主要なIdMシステムであるSAMLにも適用可能とする開発研究を行う。

また前年度組み込んだ指静脈認証技術に加え、複数のバイOMETリック認証技術の組み込みを可能とする基盤部の機能追加の研究を行う。

これらの研究の実施にあたり、産官学の有識者により構成した委員会(IdMIにおける共通本人認証基盤検討委員会)にて有識者の知見を持ち寄り、研究方針および研究内容を審議、共有する。

また、応用システムへの組み込みのためのセキュリティ機能の調査研究として、適用可能なセキュリティ技術の調査とともに、適用アプリケーションの選定とアプリケーションの機能調査ののちに、必要となるセキュリティ機能について調査研究する。

この調査研究の実施にあたり、必要な場合は前述の委員会にSWG(サブワーキンググループ)を作り、調査研究内容を審議、共有する。この調査研究は、委員会検討内容と関連性が深くまた専門性が高いため、委員各社間から委託先を選定し委託する。

- ・プログラム開発とシステム性能評価、検証実験の実施及び評価

上記の共通バイOMETリック認証基盤機能の研究成果をもとにして、プログラムの開発とシステム性能評価および検証実験を行い、前述のIdMIにおける共通本人認証基盤検討委員会にて審議、検証する。なおプログラム開発とシステム性能評価および検証実験は、委員会検討内容と関連性が深くまた専門性が高いため、委員各社間から委託先を選定し作業委託する。

(2)実施方法及び場所

本事業の中の全体計画、進行管理、ならびに産官学の有識者により構成した委員会(IdMIにおける共通本人認証基盤検討委員会)の開催、運営を(一社)日本自動認識システム協会が行う。当該委員会にて有識者(委員)の知見を持ち寄り、研究開発事項、調査事項の検討ならびに研究成果を取りまとめる。委託調査研究は上記委員会で方針を決めて行う。なお、この委託調査研究およびプログラム開発と検証作業等の委託事業は、委員会検討内容と関連性が高いため委員各社間から委託先を選定し、委託して実施する。

(3)事業の実施予定表

事業項目(段階)	期・月別			上 半 期						下 半 期					
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
① IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究															
(1) 共通バイOMETリック認証基盤機能の研究 ⁽¹⁾	←—————→														
▪ 開発研究と検証結果の評価	←—————→														
▪ 応用システムへの組み込みのためのセキュリティ機能の調査研究				←—————→											
▪ 市場動向調査								←————→							
(2) プロトタイプシステムの開発				←—————→											
▪ 全体認証基盤プロトタイプの開発				←—————→											
(3) 評価および検証実験の実施								←—————→							
▪ 認証基盤プロトタイプ評価								←—————→							
▪ 検証実験										←————→					

(4)事業成果の公表の方法

- ①JAISA ホームページ(<http://www.jaisa.jp/>)にて報告書公開
- ②JAISA BSC(Biometrics Security Consortium)委員会にて成果物の公開、提供

(5)事業の完了時期

平成26年3月31日